

(1) 大学・学科の設置理念

①大学

東京農業大学は国内外でも類を見ない農学系の総合大学として、人類生存の基盤となる農業およびその関連産業を支える学問である農学、生命科学、環境科学、バイオ産業学など農学全般の教育研究に取り組んでいる。東京農大精神は「質実剛健」「独立不羈」「自彊不息」で、現代風にいえば「物質主義に溺れることなく、心身ともに健全で、いかなる逆境にも挫けない気骨と主体性の持ち主たれ」ということである。また本学のモットー「実学主義」は、社会が実際に必要とする研究を重視する実用的で実際的な学問のあり方を意味する。

②学科等（地域産業経営学科）

【教育目標】

地域産業経営学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 広義の農学である生物産業学を基盤とし、地域産業経営学科における専門知識と技術を有する者。
- (2) 専門家としての責任を自覚し、実学主義のもと問題解決能力と意欲を有する者。
- (3) 適切なコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を有し、社会貢献ができる者。

地域産業経営学科では以下の3つのポリシーを指定している。

【ディプロマポリシー】

地域産業経営学科は、次の能力が身につけている学生に対し、学位を授与する。

- (1) 所定の期間在学し、全学、学部共通科目に加え、「生産―加工―流通・ビジネス」の学部理念のもとに編成した地域産業経営学科の特徴を活かした科目や演習、実習、ゼミナールを含めた専門的知識や技術を身につける。
- (2) 卒業論文作成に取り組み、論理的思考力や問題解決力などの能力を身につける。
- (3) 本学部での教育研究及び課外活動から修得した能力を活かし地域社会に貢献する。

【カリキュラムポリシー】

地域産業経営学科学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、以下の専門科目を配置し、これに従い教育を行う。

- (1) 地域産業経営学科では、生物産業の持続的発展と地域の活性化への基礎となる経営学・経済学に関する理論や実践的な分析手法を修得する
- (2) 生物産業の持続的発展と両輪をなす地域ビジネスに係わる理論と実践的方法を修得する「地域産業経営」について学ぶ。
- (3) 地域連携を通じた活性化の諸方策を修得する「地域産業連携」体系的に学修するカリキュラムを配置する。

【アドミッションポリシー】

豊かな生物資源と自然資源を有するオホーツク地域をフィールドとして、生物産業を中心とした経営体の持続的発展と産業連携の支援手法、さらに地域産業の再生・活性化・創造に貢献できる問題解決型の地域産業経営学を修得し、世界に通用する実践力と社会的使命を果たす主体的な意欲に溢れた人物を求める。

- (1) 学部の教育目標の下で、生物産業学を修める意欲ある者。
- (2) 高校までの基礎学力を着実に習得している者。
- (3) 心身共に健全で自立した社会生活ができ、人間関係の構築を可能にするコミュニケーション能力を有する者。
- (4) 地域や社会に貢献しようとする広い視野、明確な問題意識、強い意欲を有する者。

(2) 教員養成に対する理念・構想

①大学

初代学長横井時敬は「人物を畑に還す」と言った。この言葉通り本学は開学以来全国から若者を集め、地域に貢献する人物となるよう教育してきた。教員養成においても同様に、履修者が卒業後に全国各地で教育者として活躍することを目標とし、この東京農大精神と実学主義のもと、豊かで実践的な知識と技能を身につけた心身ともに健全な教員の養成を目指している。

今日、生命科学は進歩が速く、農学や環境科学には社会からの期待が大きい。本学教職課程ではこのような動向を踏まえ、学部段階では学科の基礎と教員としての基本的かつ実践的な知識と技術を習得させる教育を行う。

②学科等

グローバリゼーションの進展によって、地域の産業構造が大きく変化・多様化している今日、従来の都市型経営学を基盤とした一般的な教育・研究体制では、地域産業の現状把握と革新を実現することが困難となりつつある。日本の経済社会と地域産業の発展の将来は、地域資源を活用した持続可能な産業の振興、1次・2次・3次産業の連携や、都市と農村の交流・協働など、地域産業全体としての組織力・地域力の創造が求められるところである。とりわけ、農林水産業を中心とした1次産業（われわれはこれらを総称して生物産業と呼ぶ）を主要産業とする地域においては、刻々変化する経済情勢に即応し、地域の農林水産業、製造業、流通業、金融・サービス業など全ての産業が連携して叡智を集めて地域資源の持続的な保全と活用が何よりも重要である。地域産業の振興を支援する知の体系としての「地域産業経営学」の確立と、その創造的応用（実践）が求められる今日、地域の振興を経営理念と経営技術の両面から支え、起業化、人材の育成・確保、資源管理・活用に関する技術はもとより、環境共生経営、地域産業連携、産業クラスター形成などの問題解決に貢献する「地域産業経営学」の役割は大きい。

地域産業経営学科は、農林水産業、食品加工業、自然を活かした観光業、環境ビジネスなど、地域産業を支える経営を実践するための経営学理念を修得するとともに、そうした生物産業を中心とした経営体の持続的発展、産業間連携の支援を通じて地域産業の再生・活性化・創造に貢献し、地域産業の担い手たる人材をオホーツクの地・産業をフィールドとして養成するため、以下のことを教育目標として掲げている。第1に、広義の農学である生物産業学を基盤とし、地

域産業経営学科における専門知識と技術を有する者。第2に、専門家としての責任を自覚し、実学主義のもと問題解決能力と意欲を有する者。第3に、適切なコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を有し、社会貢献ができる者。などである。

こうした学科共通の育成像を體現し、中等教育を担う教員の養成に重きを置くものである。

（3）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごと）

地域産業再生と持続的発展が中心課題となる昨今、地域産業を支える新しい経営体の育成は、社会的使命でもある。例えば、農業においては、家族農業経営、農業生産法人といった伝統的な担い手以外にも他産業からの企業参入など、多様な動機を持った新しい担い手の確保が重要な課題となっている。こうした新たな担い手確保は、地域の中小企業、サービス業等においてもまったく同様に重要な課題といえよう。

新たな地域産業を創出するためには、地域産業再生への貢献意欲、資源や環境を活かした地域社会の将来ビジョン、そして地域産業全体を総合的に把握・分析する力、さらには地域管理、マーケティング、経営の戦略・計画・管理などの実践的な地域経営技術を修得した意欲あふれる人材の育成が不可欠であることはいうまでもない。さらに、地域産業の発展のためには、企業活動の舞台を世界に求め、地域グローバル企業、すなわちオンリーワン企業をめざすこともまた重要で、こうした地域企業のグローバル展開を支えるグローバル人材の育成も急務である。地方に立地し地域産業の発展に責任を持つ地方大学、学部・学科教育では、地域産業を牽引する人材育成への取り組みは重要な役割のひとつであると考えられる。

かかる「地域産業経営」をめぐる社会的貢献課題と人材育成は、高等教育の場である大学における活動に止まらず、中等教育の場においても意識づけられる課題といえる。したがって、地域活性化へのスキルを直裁に伝えるだけでなく、中学、高校の教育課程の中にもそうした芽を醸成する教育が位置づけられよう。また、地域を起点とした資源活用や、農・漁と食、林業と木育など地域の産業を基礎にした教育を展開する上でも「地域産業経営」への理解と造詣をもつ教員を養成する意味は大きい。中学校の社会科、高等学校の公民分野において、地域産業経営学科で教職課程を設置する意義はここにある。すなわち、生物産業学を体系的に理解し、かつ地域問題に関与しうる教職人材の養成が、地域産業経営学科において教職課程を設置する積極的な背景となっているからである。